

【施策評価調査】

施策名	2-4-5	学校と地域が連携した子育て		92	学校と地域が連携し一体となって、子ども達を健全に育ていく体制を整備することで、これからの町を担っていく子ども達のこころの育成を図る。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部こどもみらい課	担当	児童福祉担当		
		リーダー	戸井田 和 明		
環境変化		施策内容			学校と地域がより密接に関係するために、地域住民やPTAの中から自主的に活動できる地域パートナーを産み出し、学校支援ボランティア等と連携しながら、地域人材を活用した学校のサポート体制が図れるよう支援します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：学校支援ボランティア数1校当り人数(人/校)	平成16年度	計画	6人/2校	9人/3校	12人/4校	15人/5校	18人/6校
		実績	0	26/3校	194人/5校		
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	阿中 23人 阿小 22人 西小 122人 北小 6人 東小 21人						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	20,000	3,100,000	216,000		
	決算	9,878	2,681,700	164,120		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
放課後子ども教室事業	当初 87,000	関わった地域のおとなの人数	B	学校内の安全な場所で、おとなたちと様々な遊びを通して交流できることは、子どもたちにとって貴重な体験となり、また、地域のおとなが、子どもたちの遊びなどに主体的に関わることができ、有効に施策に貢献できた考えます。			
	決算 87,000	16人 / 30人			今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)
地域協働団体等支援事業費 再掲	当初 129,000	ボランティアメッセ参加人数(単位:人)	A	学校支援ボランティアのメッセや講演会研修会を開催しボランティアの意識の高揚と量的な増加が見られ学校支援ボランティアの拡大ができた			
	決算 77,120	248人 / 200人			今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初			今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	平成20年度は、それまで、学校に設置する予定だった「地域パートナー」は、既存の「学校支援ボランティア」と役割が重複するので、学校支援ボランティアに統合しました。学校支援ボランティアメッセを行うことでボランティアの意識の高揚が図られ、新たに2校に学校支援ボランティアが新たに組織され充実してきました。	今後、学校支援ボランティアの拡大をするとともに、放課後子ども教室と統合できる方向で進めていきたい。
総合評価	■ 総合評価 ■ 関連する事業と連携した施策展開を行っている評価する。ただし、後期計画策定に向け、生涯学習課で行っている事業との統合を検討すること。	